

## ケナフ等植物バイオマス資源の総合利用システムの実証プロジェクト (KB プロジェクト)

事業名称→ケナフ等植物バイオマス資源の総合利用システムの実証プロジェクト

略称→KB プロジェクト

事業期間→10 年（2030 年度を最終年として、その後地球規模での事業展開を図る）

### 4 段階の短期事業計画案

第 1 段階（A）スタートアップ（始動期間）：実施場所の選定・基本計画の立案）

→2020 年 10 月 1 日～2021 年 3 月 31 日（半年）

→全体の実施計画・予算案の作成

第 2 段階（B）枠組み設定期間（参加者、個人・団体・企業の枠組み設定）

→2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日（3 年）

→実行組織・団体の設定と調査

第 3 段階（C）インフラ構築期間（ソフト・ハードの設定）

→2024 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日（3 年）

→現地でのソフト・ハードのインフラ建設

第 4 段階（D）全体の実証試験・評価の期間（最終成果の公表）

→2027 年 4 月 1 日～2031 年 3 月 31 日（4 年）

→評価に基づく長期将来計画の立案

### 基本理念

「ケナフ等植物バイオマス資源」はアフターコロナ・ウイズコロナ時代の「新しい地域社会の構築」のための基本資源になり得ると考える。特に、ケナフは紀元前から人類によって栽培され、人類とともに世界各地に広がった有用な繊維作物である。短期間（4 か月程度）で成長し、種まきした人々が楽しみながら衣食住の多くの分野に幅広く利用することができる。人類は森林や化石資源を利用しながら文明を発展させ、その人口増加を支えてきたが、その利用を現在の方式で無限に続けることはできない。これからは、地域社会の置かれた条件下で栽培利用できる方式、「ケナフ等植物バイオマス資源の総合的な利用体系」を構築すべき時代に突入したと考える。

日本では、世界的なケナフブームの中で、ケナフ協議会関係者が平成時代の約 30 年間

に多くの成果を示してきた。島嶼国<sup>とうしょこく</sup>である日本は約7千の島々から成り、しかも南北に広がる多様な気候風土に根差した文化を持つ。このため、日本文化は手すき和紙や木工技術、漆器の文化など天然高分子の利用技術を古くから発達させてきた。ケナフブームの中でも、教育分野での手すき紙の利用、自動車分野でのボード・ドアトリムなどへの利用、建築分野での高強度ボードの開発など日本独自の技術開発が行われ、実用化された。18世紀の産業革命以降、急速に発達した大量生産、大量消費方式を日本も取り入れて資本主義経済が急速に発展したが、多くの地球規模での問題点を解く方式の開発には至っていない。近年の多くの世界的課題、即ち、地球温暖化防止、環境汚染、気候変動、所得格差などの問題を解く方式の開発が世界的にも急務とされている。

原料資源の生産と消費を地球の生命体の許容範囲内に止めるための中小規模のヒト・植物・動物の「総合利用システム」を開発する必要がある。そのことによって、世界各国でもみられる都市と地方間の人口、所得、教育、福祉の格差問題を解くカギを見つけることが期待できる。日本独特の地域文化は、衣食住の幅広い分野に広がっており、その成果は世界各地の地域文化の継承発展にも資する。日本政府のデジタル強靱化政策ともつながりながら、日本国内の持続可能な地域コミュニティの総合システムとしての「新しい社会の構築」が全国の地方・都市部との協働作業としても実施可能であることを、日本国内の現場でまず実証する。

この事業は、2020年度に経験した地球規模の新型コロナウイルス危機、気候危機さらにはエネルギー危機の地球規模での課題解決の必要性を背景として、ケナフ協議会関係者が日本国内で実施してきた成果を持続可能な総合システムとして10年間で発展させ、今後の国内各地での事業の発展、さらには海外各地での地域コミュニティの「持続可能な発展方式の立案と実施」にも資することを目指す。